



学 校 便 り 琢 磨

第 1 9 号 R2.9.11 三豊市立詫間小学校

ニュース：うさぎの子どもが育っています！

今週になって、かなり涼しくなってきましたね。先週は、「もう、秋は来ないのではないかと、不安に思ってしまったのですが、季節は確実に移り変わっていくものです。

さて、詫間小学校では、うさぎを飼育しています。主に2年生の皆さんがお世話をしてくれています。

この度、うさぎの子どもが生まれて、元気に育っています。うさぎの子どもは、7羽います。

右の写真のように、えさの入れ物の中に入り込んで食べている様子は、何とも言えないかわいらしさがあります。「入れ物の外からは、食べ物に届かないよ。えーい、中に入っちゃえ！」と、うさぎの子どもたちが思ったかどうかは分かりませんが、とにかく、今はこのような様子です。詫間小学校の皆さんと同じように、すくすくと成長してほしいですね。



10月から水曜日は5時間授業に戻ります。

長い臨時休業で遅れていた学習を補うために、三豊市内の小学校は、週1コマ（1時間）、授業を増やしています。詫間小学校では、水曜日に1時間増やして6時間の授業を行っています。

先日の市校長会で、「夏休みの短縮、学校行事の取りやめ、週1コマの授業時間増等によって、学習の進度もほぼ戻っている。」とのことから、時間割を元に戻すことになりました。

10月以降は、水曜日の日課が、「掃除あり、帰りの会あり、5時間授業、下校14：50」というように元に戻ります。これから先、臨時休業等が無ければ、年度末までこのままです。

ただし、10月21日（水）に授業参観が実施できる場合、この日のみ水曜日は6時間授業となります。（授業参観・・・10/21（水）5、6時間目を予定。リレーの公開は別の日に行います。）

9月後半～10月の行事について（再掲）

- 9月18日（金）・・・授業参観は、中止します。
- 9月19日（土）・・・運動会は、中止が決定しています。
- 9月27日（日）・・・資源回収（2分館）は、実施します。小・中学生の参加は見合わせます。
- 10月 4日（日）・・・資源回収（3分館）は、実施します。小・中学生の参加は見合わせます。
- 10月 6日（火）・・・地区陸上記録会は、実施の予定です。
- 10月 7日（水）・・・遠足は、実施の予定です。（詳細は、学年便りでお知らせします。）
- 10月11日（日）・・・資源回収（4分館）は、実施します。小・中学生の参加は見合わせます。
- 10月15日（木）・・・地区音楽会は、中止が決定しています。
- 10月21日（水）・・・授業参観は、午後実施の予定です。
- 10月23日（金）・・・校内音楽会は、中止が決定しています。
- 10月25日（日）・・・資源回収（5・6分館）は、実施します。小・中学生の参加は見合わせます。

本当にあった「こわい話」

これは、私が幼い頃、父親から聞いた、本当にあった「こわい話」です。

私の父は、現在、89歳です。その父がまだ若かった頃のことですから、今から60年くらい前の話になるのでしょうか。60年前というと、自動車どころかオートバイでさえ、ほとんど走っていません。田舎の道には街灯（がいとう）などありません。つまり、夜になると、民家がない道では、月明かりがない時は、本当に真っ暗になるのです。峠（とうげ）の道は、まさにそんな場所だったのです。

当時、父は、詫間の家から仁尾の仕事場まで自転車で通勤していました。詫間から仁尾に行くには、峠道を越えなければいけません。その出来事は、ある冬の夜。月明かりの全くない峠の頂上付近で起こったのです。

「ああ、真っ暗だ。こわいなあ。もう少しで峠の頂上だ。下りは一気に走ろう。」と、自転車を押しながら父が思った瞬間、峠の頂上付近に小さな明かりが見えました。「自転車だな。俺以外にも、こんな真っ暗な中を走っている人もいるんだな。」と、少し安心していましたら、その光は、ものすごいスピードで父に近づいてきました。そして、その自転車が父の横を通り過ぎようとした時、父は、ギラリと光る鋭い目と、毛むくじゃらで、口が耳の辺りまでさけた顔をしたオオカミのようなものが自転車に乗っているのを見てしまったのです。父は、おそろしくて声も出なかったそうです。「あれは、いったい何だったのか。化け物か。今度会ったら、食べられてしまうかもしれない。」そんな恐怖（きょうふ）がありながらも、父は、次の日の夜も、その峠道の頂上付近に自転車を押しながらさしかかっていた。この道を通らなければ、ものすごく遠回りになってしまうからなのです。「今夜は、どうかあの化け物が出ませんように。」と、普段は全く祈ることもない神様や仏様に念じた時でした。昨夜と全く同じ場所に、父はあの光を見てしまったのです。父は、こわくて、こわくて、自転車を止めて道ばたでじっと息をひそめていました。その光は、昨夜と同じように猛スピードで近づいてきます。父は、顔をふせてじっとしていました。ヒューンと風が父の髪を吹かした時、獣（けもの）のような特有のにおいもただよってきました。「ああ、行ってしまった。気付かれなかった、よかった。」と、父は、一目散に家に急ぎました。

その次の夜。父は、また同じ峠道を通っていました。しかし、今夜は頂上に着くまで、あの光はありませんでした。「ああ、よかった。今夜はいないぞ。」と思った瞬間。何と目の前に小さな光があるではありませんか。「もうだめだ。見つかった！」と思った父は、とっさの行動に出ました。それは、目を閉じて、大きな声で「こんばんは！」とさけんだのです。すると、「こんばんは！」と返事がありました。父は目を開けて驚きました。向こうの自転車には、父と同じくらいの年齢の男の人が乗っているではありませんか。よく見ると、その男の人の背中には、大きな黒い犬が乗っているのです。大きな犬なので、男の人が頭を少し下げると、犬の頭の方が、上になり、まるで犬が自転車に乗っているかのように見えるのです。「こんばんは。犬を乗せて走っていたのですね。私はてっきり・・・。」

と、父はあらためてあいさつしました。

「いやあ、こんばんは。あなたでしたか。私も、さっきまで自転車の灯りが見えていたと思ったのに、急に見えなくなって、人の気配も消えてしまうので、こわくて仕方なかったんですよ。」

父と、その男の人は、峠の頂上で自転車を止めて笑い合ったということです。ちょうど、その時に、久しぶりに雲の間から月が出て、二人と犬を照らしていたそうです。

私が「どうして、あいさつしないといけないの？面倒くさいし、はずかしいし。」と父に聞いた時に、答えの代わりに、この「こわい話」をしてくれました。「あの時、もしあいさつをしていなかったら、お父さんもあの男の人も、お互いに相手を『こわい』と思ったままだったかもしれないね。」と、父は笑いながら話を締（し）めくくってくれました。

今、詫間小学校では「あいさつキャンペーン」が行われていて、気持ちのよいあいさつが飛び交っています。その声を聞いていると、私が幼い頃、父から聞いた話を思い出してしまいました。